

ピリピ人への手紙

ピリピの町は、紀元前356年にマケドニアのピリピ王二世に因んで名前が付けられました。彼は、アレキサンダー大王の父でした。ピリピは、紀元前42年にローマの植民地となり、政治的にも経済的にも栄えました。東方の州とローマをつなぐ大通りにあった町でした。ピリピの住民は、免税などを含んだローマ市民の特権を持っていました。ピリピは、ローマ文化の中心地でした。

ピリピの教会は、聖霊の導きと働きによって建て上げられました。パウロは、使徒16:1-10にあるように、マケドニア人が『マケドニヤに渡って来て、私たちに助けてください』と懇願する幻を見ました。この幻を通して、パウロとパウロの仲間（シラス、テモテ、ルカ等）は、マケドニアに行って福音を伝えることが神様の御心だと分かりました。

そこで、パウロと仲間がピリピに行きました。使徒16:11-40に、そこでの活動について書かれています。ルデヤは、最初に福音を信じた人でした。その後パウロとシラスは、悪霊によって予言する若い女の人から悪霊を追いだしたという理由で、牢屋に入れられました。真夜中12時頃、牢獄にいたパウロとシラスは祈ったり賛美したりしていました。その時神様は、地震を起こして牢屋を振り動かしました。牢屋のドアが開き、囚人たちの鎖が解かれてしまいました。

看守は、囚人たちにもう逃げられてしまったと思い、そこで自殺しようとしていた時、だれも逃げていないと分かった看守は、パウロとシラスに聞きました。「救われるためには、何をしなければなりませんか。」 「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」とパウロとシラスは、使徒16:31に答えました。その夜看守と家族全員は、イエスさまを信じて洗礼を受けました。このように、神様の力強い働きによって教会が、形成されていきました。

作家、書かれた場所と時代

ローマで獄中の身となった時に、パウロがピリピ人への手紙を書いた、とほとんどの聖書学者は考えています。使徒28:14-31にあるように、裁判を待っていた間にこの手紙を書いた のでしょう。そうであれば、紀元後61年か62年に書かれたというわけです。そして、その10-11年前にパウロと宣教チームが、ピリピで福音を伝えて教会を始めたのででしょう。

状況と目的

ピリピの教会とパウロは、連絡を取り合っていました。パウロが逮捕され、ローマで裁判を待っていると聞いたピリピの人たちは、エパフロデトを通してパウロに献金を送りました。エパフロデトは、その献金をパウロに持って行く途中で、死にかかるとほどの病いを患いました。その後彼は回復してから、パウロが書いた手紙を持ってピリピに戻りました。

パウロは、献金とともに励ましてくれたことを感謝しました。そして手紙を通してイエス・キリストを中心として、信じて従うように励ましました。また、なぜエパフロデトを送り返したかの説明をしました。そして、間違った福音を伝えていた偽物の教師について注意しました。ピリピ人への手紙には、パウロとピリピの人との親しい関係がよく見られます。

この手紙は、パウロが弟子たちに向けて書いていたことを理解することが非常に重要です。彼は弟子たちと親しい関係を持って、彼らを愛していました。イエスとの歩みにおいて、彼らを励ましたいという気持ちに溢れてこの手紙を書きました。彼はキリストへの信仰と情熱を分かち合い、弟子たちが自分の模範に従い続けることを望んでいました。また、彼らがキリストを知り、キリストにあって成熟することを望んでいました。パウロは、この心を持ってピリピ人への手紙を書きました。

要旨と特徴

キリストを知り、キリストのいのちと力を体験することは、ピリピ人への手紙の中でパウロが伝えたかった中心的なことです。「キリスト」は、この短い手紙の中で38回も出てきます。キリストの中心性が、下記のアウトライン一章ずつに見られます。

ピリピ1章 「キリストが私たちのいのちです。」

重要聖句： 21 「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。」

ピリピ2章 「キリストが私たちの模範です。」

重要聖句： 5 「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。
それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」

ピリピ3章 「キリストが私たちの目標です。」

重要聖句： 7 「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、
私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。」

ピリピ4章 「キリストが私たちの力と平安です。」

重要聖句： 13 「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでも
できるのです。」

この手紙の中の他のテーマは、喜び、交わり、謙遜、一致等です。喜びは、すべての章に響いているテーマです。例えば、パウロは自分の信仰と喜びを表して、『主にあって喜びなさい』と4：4節に書いています。パウロは自分の生活と模範によって、喜びは状況によることなく、主との関係によって与えられることだと実証しています。獄中にいて色々な苦しみがあるにもかかわらず、パウロは喜んでいました。

私たちのキリストにある交わり（コイノニア）も、何回か出てくることばです(1:5, 2:1, 3:10, 4:14-15)。それにパウロは、ピリピの人々との親しい関係についてふれて、彼らに対する自分の素直な感情を表しました。キリストが示した謙遜の心は、交わりの一致を保つ鍵です。キリストの謙遜と高くあげられたことについて、2：6－11に書かれています。これは、初代教会が歌っていた賛美だと思われています。この箇所には、キリストの神性、キリストの受肉、またキリストの上げられた現在の位置という深い真理が書かれています。

この手紙の興味深いことは、旧約聖書の引用が一つもないところです。それは多分、ピリピの人々はユダヤ人ではなかったため、旧約聖書にあまり詳しくないためでしょう。この手紙のもう一つの特徴は、自分の宣教をサポートしていた人々への感謝を表すための手紙でした。多分ピリピの教会が、一番パウロをサポートしていたのででしょう。パウロは、繰り返し感謝と自分の暖かい愛情を表しました。

ピリピ人への手紙

ピリピ人への手紙 1

キリストが私たちのいのちです。

弟子を作る人の心 ピリピ 1:1-11

1 キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。2 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

この二節からピリピ人への手紙を書いた人と受け取った人たちについて何が分かりましたか。

3 私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、4 あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、5 あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は強く信じているのです。

パウロはピリピの信徒たちとの関係をどのように表現していますか。またどんな感情を表しましたか。3-6

パウロは6節で、彼らのうちに良いわざを始められた神が、キリストの日までそれを完成させてくださると確信していると述べました。なぜ彼はそれほど確信していたのでしょうか。

7 私があなたがたすべてについてこのように考えるのは正しいのです。あなたがたはみな、私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵みにあずかった人々であり、私は、そのようなあなたがたを、心に覚えているからです。8 私が、キリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがたすべてを慕っているか、そのあかしをしてくださるのは神です。

パウロは、7-8節で、続いて神が彼らのうちにみわざを完成してくださるといふ確信を語りました。「私があなたがたのことをこのように考えるのは正しいことです」と言いました。彼はどのような理由を述べたのでしょうか。また、どのような感情を表しましたか。7-8

9 私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現われますように。

パウロは、彼らのためにどのように祈ったか、自分のことばでまとめて自分のことばでまとめてみましょう。9-11

弟子を作る人の信仰 ピリピ 1 : 12 - 19

12 さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。13 私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、14 また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。

パウロが投獄されたことによって、どのように福音が広がっていききましたか。12-14

15 人々の中にはねたみや争いをもってキリストを宣べ伝える者もありますが、善意をもってする者もあります。16 一方の人たちは愛をもってキリストを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めています。17 他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。18 すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいて、今からも喜ぶことでしょう。

間違った動機で福音を伝えていた人たちに対して、パウロはどのように思っていましたか。なぜ喜んでいたのでしょう。15-18

弟子を作る人の炎と焦点 ピリピ 1 : 19 - 26

19 というわけは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の助けによって、このことが私の救いとなることを私は知っているからです。20 それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。

パウロの一番大きな願いと情熱は、何でしたか。あなたを通して、キリストがどのように周りの人に表わされていますか。19-21

「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です」とパウロが21節に言ったことばは、あなたにとってどんな意味がありますか。21

22 しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。23 私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。24 しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です。25 私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びのため、私が生きながらえて、あなたがたすべてといっしょにいるようになることを知っています。26 そうなれば、私はもう一度あなたがたのところに行けるので、私のことに関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。

どうして肉体から離れてキリストとともにいた方がいいのでしょうか。パウロにとって、この世に残る目的は何でしたか。あなたがこの世に残る目的は。22-26

キリストの福音にふさわしく生活しなさい。 ペリピ1：27－30

27 ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、28 また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。29 あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。30 あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。

キリストの福音にふさわしく生活するとは、どういうことですか。個人にとって、また共同体にとってどういうことか説明して下さい。27

あなたは迫害とか苦しみに会おうと思いませんか。それでもキリストに従いますか。28-30

ピリピ人への手紙2 キリストが私たちの模範です。

へりくだって一致を保ちなさい。他の人を自分より大事にしなさい。 ピリピ 2：1-4

1 こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、2 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

神様との愛する関係のおかげで、お互いの関係において一致と親しい交わりが生じるでしょうか。1-2

他の人を「自分よりも優れた者と思いなさい」ということは、どういう意味ですか。「自己中心や虚栄」は、人間関係にどのように影響しますか。自分よりも他の人のことを考えて大事にするための具体例をあげてください。3-4

キリストと同じ謙遜な心構えでいなさい。 ピリピ 2：5-11

5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

キリストの心構えとは何ですか。5

キリストは神様ですか。「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず」とは、どういうことでしょうか。6

キリストはどのようにして自分を無にされましたか。どのように仕える者の姿になりましたか。7

キリストは、どのように卑しくなられましたか。天のお父様の御心に従って十字架まで行ったのは、楽なことだったでしょうか。 8

私たちは、キリストと同じ心構えを持つために、どうすれば良いでしょうか。 5-8

9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

キリストについて、9-11 節ではどのように教えていますか。キリストは謙遜、従順と仕えることによって高く上げられました。またそれによって、私たちの考え方はどのように変わるべきでしょうか。 9-11

自分の救いの達成に努めなさい。 ペリピ 2 : 12 - 18

12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。 13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

「恐れおののいて自分の救いの達成」するとは、どういうことでしょうか。神様の役割は何でしょうか。私たちの役割は、何でしょうか。 12-13

神に喜ばれることを志し、実行できるようになるために、神はあなたのうちにどのように働いてこられましたか。 13

14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中であって傷のない神の子どもとなり、16 いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦労したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

つぶやいたり疑がったりすることは、人間関係にどういう影響を与えますか。それは、周りへの証としてはどうでしょうか。どのようにすれば、私たちが「世の光として」輝くことができるでしょう。14-16

17 たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。18 あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。

ピリピ人に対するパウロの心構えは、どんなものでしたか。17-18

謙遜の模範：テモテとエパフロデト。 ピリピ2：19－30

19 しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたいので、早くテモテをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあって望んでいます。20 テモテのように私と同じ心になって、真実にあなたがたのことを心配している者は、ほかにだれもいないからです。21 だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。22 しかし、テモテのりっぱな働きぶりは、あなたがたの知っているところです。子が父に仕えるようにして、彼は私といっしょに福音に奉仕して来ました。23 ですから、私のことがどうなるかがわかりしだい、彼を遣わしたいと望んでいます。24 しかし私自身も近いうちに行けることと、主において確信しています。

テモテは、どのようにイエス様に似ていましたか。19-24

25 しかし、私の兄弟、同労者、戦友、またあなたがたの使者として私の窮乏のときに仕えてくれた人エパフロデトは、あなたがたのところに送らねばならないと思っています。26 彼は、あなたがたすべてを慕い求めており、また、自分の病気のことがあなたがたに伝わったことを気にしているからです。27 ほんとうに、彼は死ぬほどの病気にかかりましたが、神は彼をあわれんでくださいました。彼ばかりでなく私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにしてくださいました。28 そこで、私は大急ぎで彼を送ります。あなたがたが彼に再び会って喜び、私も心配が少なくなるためです。29 ですから、喜びにあふれて、主において、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。30 なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。

エパフロデトは、どのようにイエス様に似ていましたか。25-30

ピリピ人への手紙3 キリストが私たちの目標です。

私は、人間の力に頼むことがない。 ピリピ3：1-6

1最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。2どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。3神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。4ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。5私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、6その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。

「肉体だけの割礼の者」とは、誰のことを指していたのでしょうか。2

3節でパウロは、どういう意味で「割礼」という言葉を使っていたのでしょうか。（ローマ2：28-29と比べてみて下さい。）3

4-6節で、パウロが前にはどんな人間的なものに頼んでいたとありますか。あなたは自分のことで誇ることがあるとすれば、どういうところですか。4-6

私には、キリストとその復活の力を知ることが一番大事です。 ピリピ3：7-11

7しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。8それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、9キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。10私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。

パウロにとって、「得」（価値があること）と「損」（価値がないこと）は何でしたか。7-11

キリストに出会ってから、パウロはどのように価値観と考え方が変わったのでしょうか。7-11

パウロの一番の情熱と最大の目標は、何でしたか。あなたのは何ですか。 7-11

どうして神の義はキリストを信じることによってしか与えられないのでしょうか。神様が与える義と「律法による自分の義」を比べて下さい。 9

パウロの願っていたことは、何でしたか。 10-11

私は、キリスト・イエスにある目標を目指しています。 ペリピ 3：12-16

12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるではありません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

パウロが目指していた賞とは、何でしたか。 11-14

成長している弟子は、どのような考え方を持っているでしょう。 15

神様は、どのように真理を明らかにして下さいますか。あなたは神様が示された真理に従っていますか。 16

キリスト・イエスに従う私を見ならう者になって下さい。 ピリピ 3：17-4：1

17 兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。18 というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。

あなたが模範としてついて行きたいと思っている人は誰ですか。他の人に、「私を見ならう者になって下さい」と言えますか。 17

現代のリストの十字架の敵」とは誰ですか。 18-19

20 けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

イエス様が、再臨されたらどういうことが起こりますか。あなたは、自分の国籍が天にあることを喜んでいきますか。 20-21

4:1 そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。

ピリピの兄弟姉妹に対するパウロの心を描写してください。 4:1

ピリピ人への手紙 4 キリストが私たちの力と喜びと平安です。

励ましと勧め。 ピリピ 4 : 2-9

2 ユウオデヤに勧め、ストケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

どのように主にあって一致することができますか。様々なことにおいてある人と違う意見があるのに、主にあってその人と一致できますか。 2-3

2節と3節によって、女性たちは同労者であったことが明らかです。どんな働きをしていたと思いますか。

4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

「いつも主にあって喜ぶ」とは、どういう意味でしょうか。 4

「主は近い」ということを知っている事が、なぜ私たちをもっと寛容にするのでしょうか。 5

6節と7節で、どのように祈れと教えていますか。祈る事とキリストの交わりと心の平安とは、どんな関係がありますか。 6-7

8最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

9あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

「心に留められる真実なこと、誉れあること、正しいこと、清いこと、愛すべきこと、評判の良いこと、徳と言われること、称賛に値すること」の例をあげてください。 8

1-9節の勧めの中で、今自分にとって一番大事なことは何ですか。 1-9

どんな状況があったとしても、私はキリストにあって満ち足りています。 ペリピ 4:10-13

10私のことを心配してくれるあなたがたの心が、このたびついによみがえって来たことを、私は主において非常に喜びました。あなたがたは心に掛けてはいたのですが、機会がなかったのです。11乏しいからこう言うものではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。12私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。13私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

どんな状況にあったとしても、満ち足りているパウロが学んだ秘訣とは何でしたか。その時のパウロの状況はどうでしたか。 10-13

非常に難しい状況や自分の必要が満たされない場合でも、どうすれば満ち足りていられるのでしょうか。 10-13

あなた方はが私の必要を満たしたので、神様はあなたの必要をすべて満たして下さいます。 ペリピ 4:14-20

14それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくれました。15ペリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つもありませんでした。16テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってくれました。

ペリピ人はどのように与えていたでしょうか。 14-16

17 私は贈り物を求めているわけではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。18 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。20 どうか、私たちの父なる神に御栄えがとこしえにありますように。アーメン。

パウロが贈り物を受けた時の状況と態度を説明して下さい。 17

神様は、ピリピ人の贈り物をどのように見ていましたか。 18

パウロは、「私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さる」とどうして自信を持って言えましたか。 19-20

私たちが喜んで与える時や神様が豊かにすべての必要を満たすことで、どのように神は栄光を受けるのでしょうか。 19-20

挨拶と祝福。ピリピ 4：2 1-2 3

21 キリスト・イエスにある聖徒のひとりひとりに、よろしく伝えてください。私といっしょにいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。22 聖徒たち全員が、そして特に、カイザルの家に属する人々が、よろしくと言っています。23 どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

21-22 節の人たちはどんな関係を持っていたと思いますか。 21-22

「主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように」という 2 3 節の最後の祝福は、具体的にどういう意味ですか。 23

ピリピ人への手紙

暗唱聖句

ピリピ 1:21

私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。

ピリピ 2:5

あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

ピリピ 3:7

しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。

ピリピ 4:13

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。